まちと校舎は使いよう

―地域と繋がる新しい小学校―

―― 子どもの居場所を考える。

現代社会において、子供を取り巻く環境は大きく変化している。同時に、子供自身とその家庭が抱える問題は、多様かつ複雑化している。
その問題を抱えた個の家庭を、「学校」という施設が満足にサポートするのは難しい。加えて社会意識や地域環境の変化から、小学校とその家庭・地域の距離は広がっている。
以上の現状に対し卒業設計では、小学校に代わる新しい子供の居場所を検討し、地域全体で家庭を支える豊かなまちづくりを提案する。
塀に囲まれ、その中で壁に囲まれた建物の「校舎」という固定概念を取り払い、新しい子どもたちの居場所を考える。

1. 場所

計画地としたのは、
愛知県名古屋市高針学区　市立高針小学校とその周辺

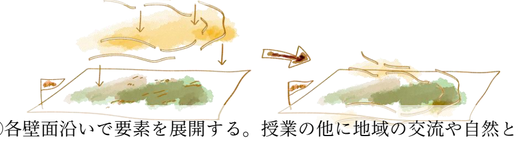
住宅が寄り添って集まる、昔ながらの街並みが残る地域。緑地も多く残り、比較的自然に触れる機会がある。小学校近隣に、2つの公園・学童保育・保育園という子供が主体となれる空間が点在している。

2. 計画

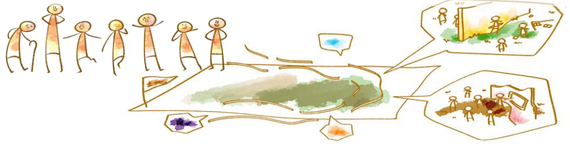
①小学校校舎を中心に周辺の範囲を抽出。次に校舎を解体する。

②校舎が抱えていた教室などの要素を区域内に散らす。
同時に公園・緑地や学童保育なども要素として融合する。

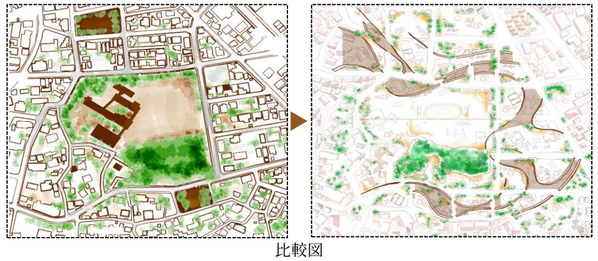
③散った部分に沿うように区域全体に曲線の壁面を巡らせていく。
同時に小学校に代わる、建築の象徴となる。



④各壁面沿いで要素を展開する。授業の他に地域の交流や自然との繋がりを広げ、豊かなまちづくりへ展開する。



3. 生まれる効果



比較図

それぞれに散った新しい学習空間は、一般住宅と隣り合わせという立地になる。つまりより地域に近い計画となる。広がる視野と増える出会い、大きくなる可能性。
それらが子供たちの感性を、より豊かに育んでいく。

計画地平面図

多目的室
公園
外教室
大通り→
中学校→
交流スペース
兼職員拠点
中教室
体育館(既存)
グラウンド
200000
6000
学童保育
トワイライト
25mプール（既存）
プール
広場
神社
竹林
交流スペース
兼食堂拠点
広場
←住宅街
外教室
図書館
中教室
保育園(既存)↓

■高学年エリア
(平面図北側)
小学校4~6年生に属する児童が
主に利用する区域。
該当する児童を混合して、
複数の班に分けてそれぞれで
活動を行う。

○理科室・視聴覚室他
○外・中教室　など

■混合エリア
(平面図中央部)
地域での交流活動がメインの
エリア。

○学童保育
○地域伝統文化の講座
○グラウンドでの活動　など

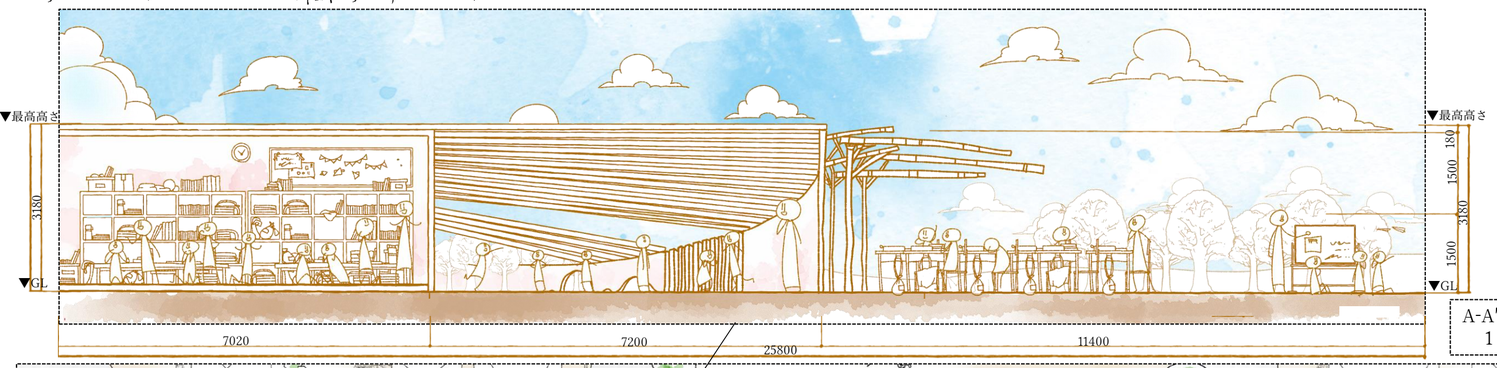
■低学年エリア
(平面図南側)
小学校1~3年生に属する児童が
主に利用する区域。

○大室内空間
○外・中教室　など

N

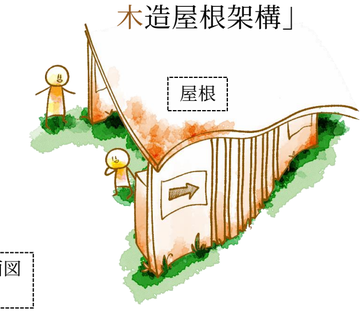
計画平面図
S=1：856

学区平面図北側(高学年エリア)



A-A'断面図
1：80

「2次曲線加工の木造屋根架構」



「葉を象った、教室部分の屋根」

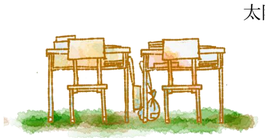
壁の存在感

学校内の企画以外にも、地域で開かれる
○BBQ○リサイタル○フリーマーケットなど、
楽しんで輪を広げられる交流イベントを展開。

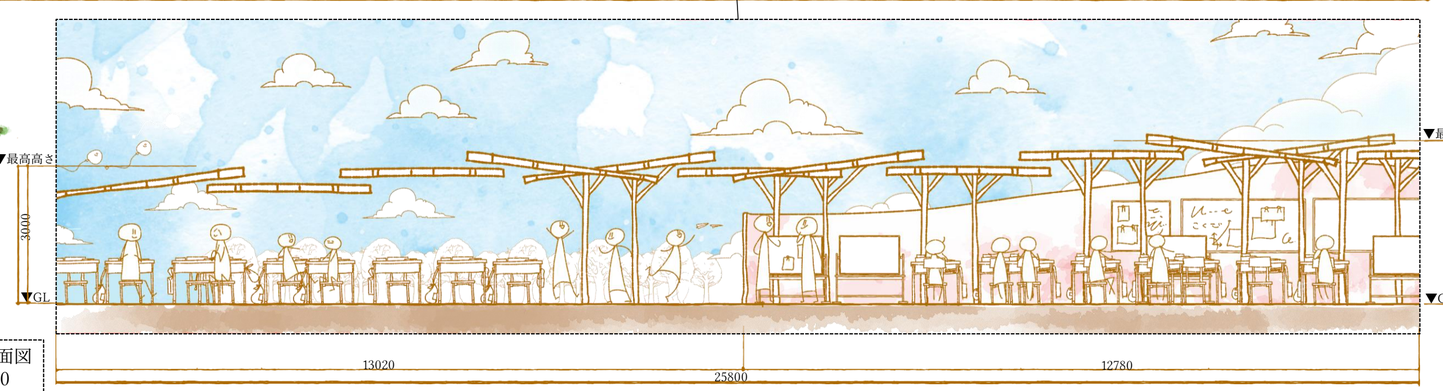
掲示板、作品展など使い方はいろいろ。

室内、室外、使い分けられる学習空間。

日々移り変わる屋外という自然の中、
太陽の光を浴びながら学ぶ。

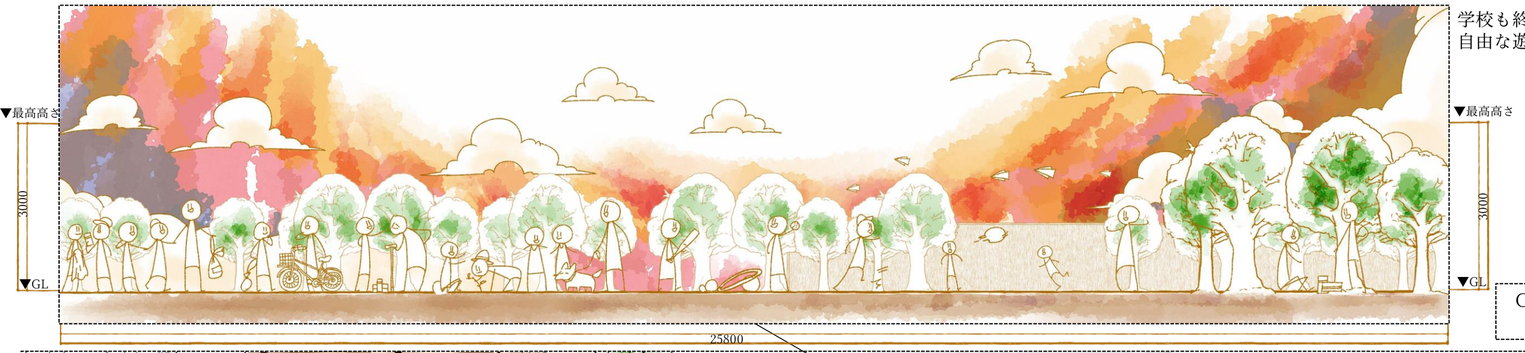


晴の日、広く使う空間



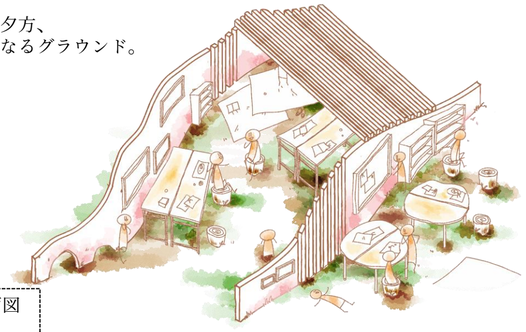
B-B'断面図
1：80

▨学区平面図中央部(混合エリア)

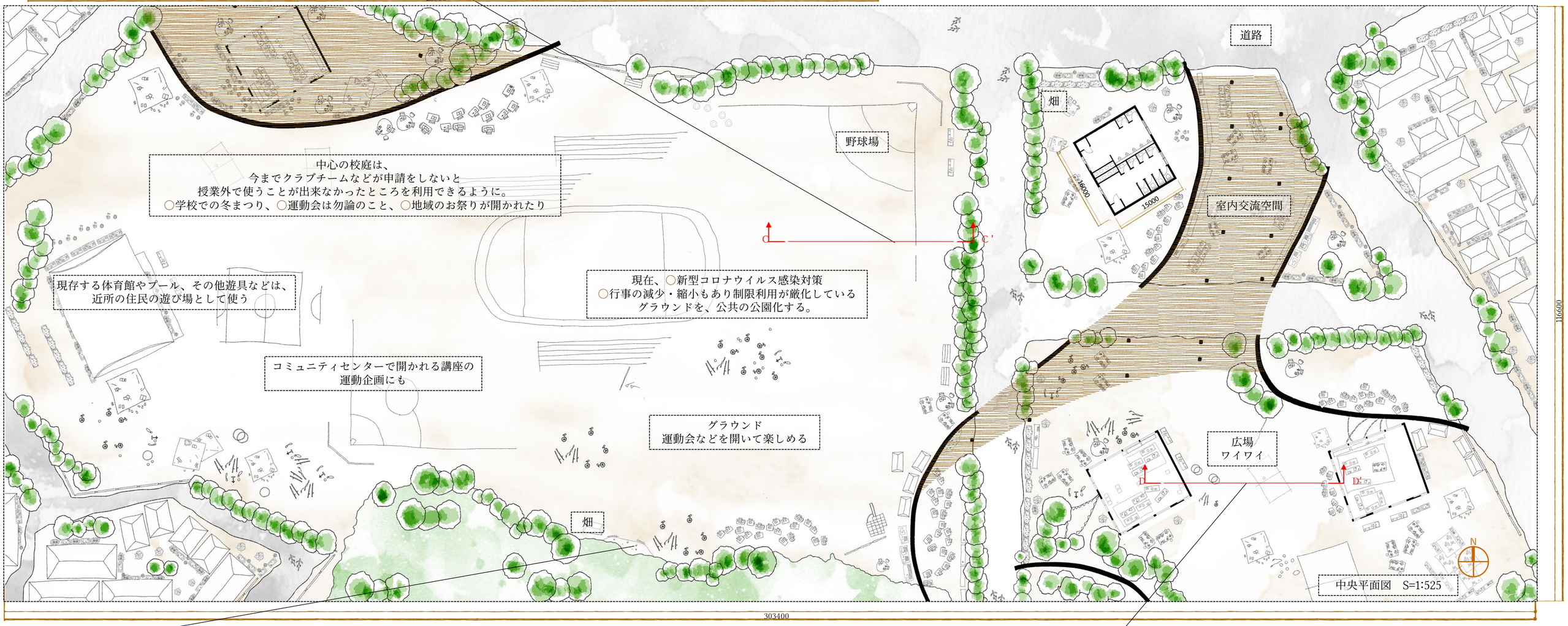


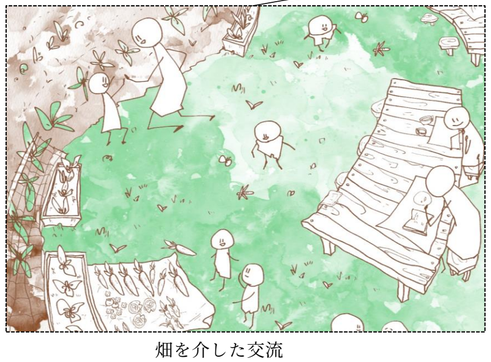
学校も終わった夕方、
自由な遊び場になるグラウンド。

C-C'断面図
1:80



「防犯」
門に鍵をかけるなど、
外部との遮断を優先して安全性を確保するのでは無く、
「地域の人が気兼ねなく訪問できる場所」という形に。
→「人とのつながり」で安全性を確保する。



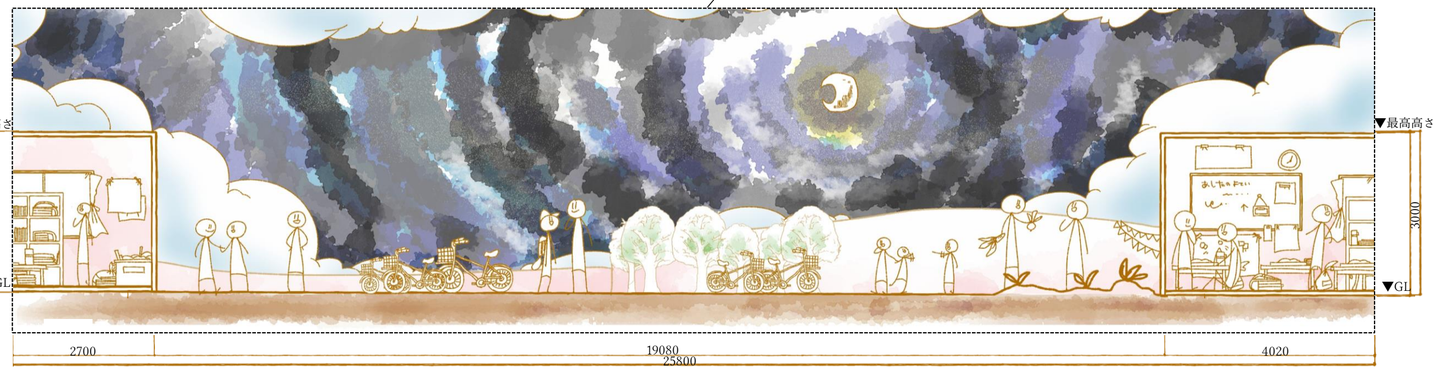


畑を介した交流

所々にある畑。
その畑で取れた作物を近所におすそ分け。

更に例えば理科の授業にも利用でき、
植物の授業ではより理解を深められたりも。
この地域の気候に合った植物の知識についても住人から
学べたり、可能性は広がる。

日の沈んだ頃、学童のお迎えで賑わう。
人の声がこだまする夜は、
防犯や新しい出会いにもつながる。

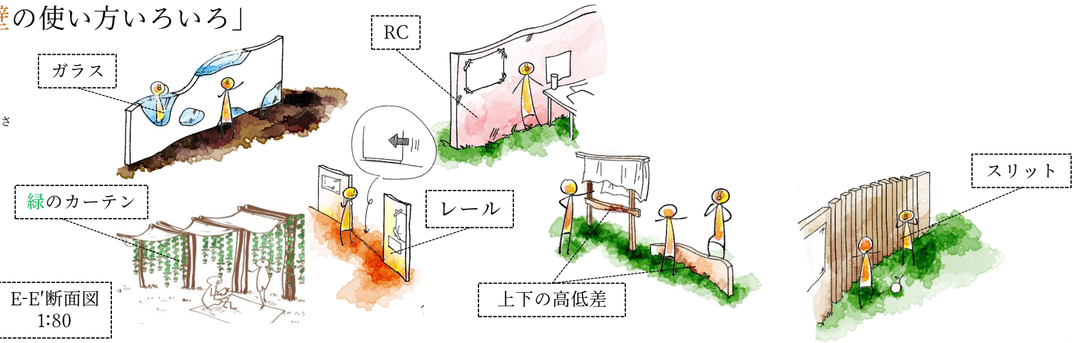


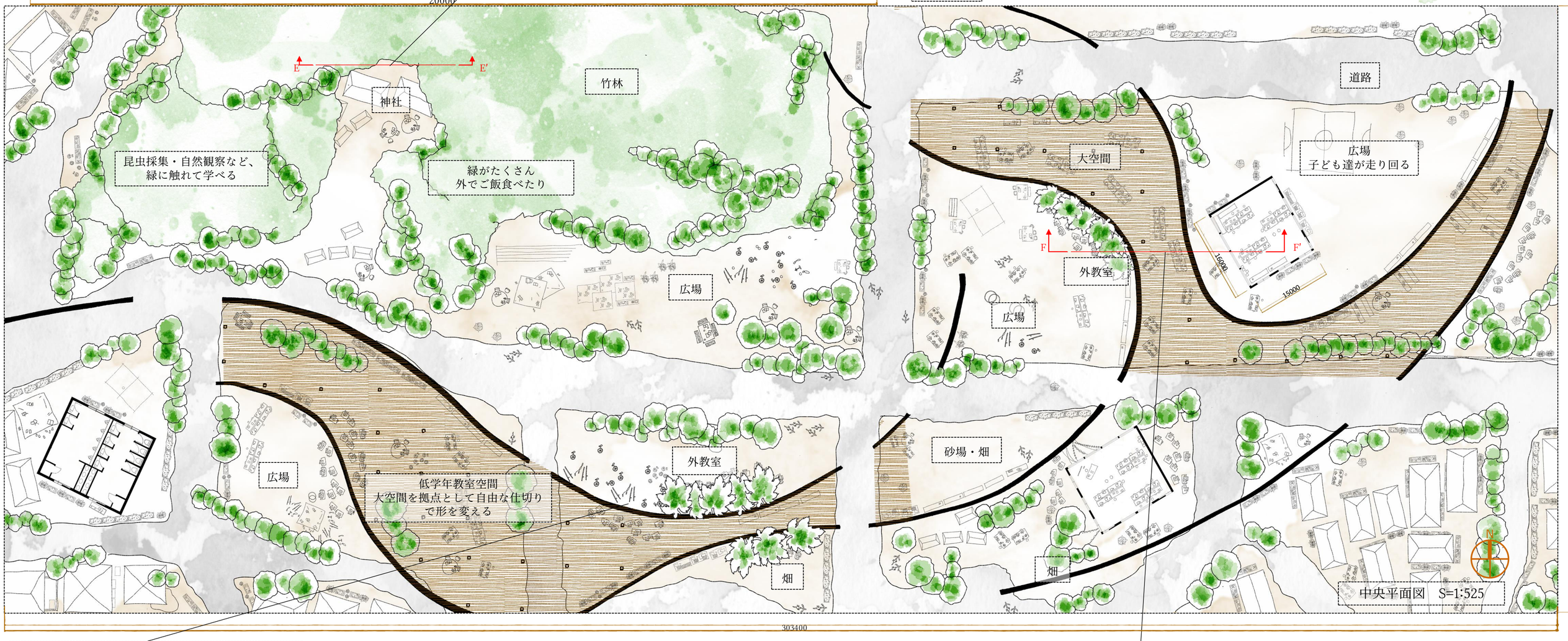
D-D'断面図
1:80

学区平面図南側(低学年エリア)

E-E'断面図
1:80

「壁の使い方いろいろ」



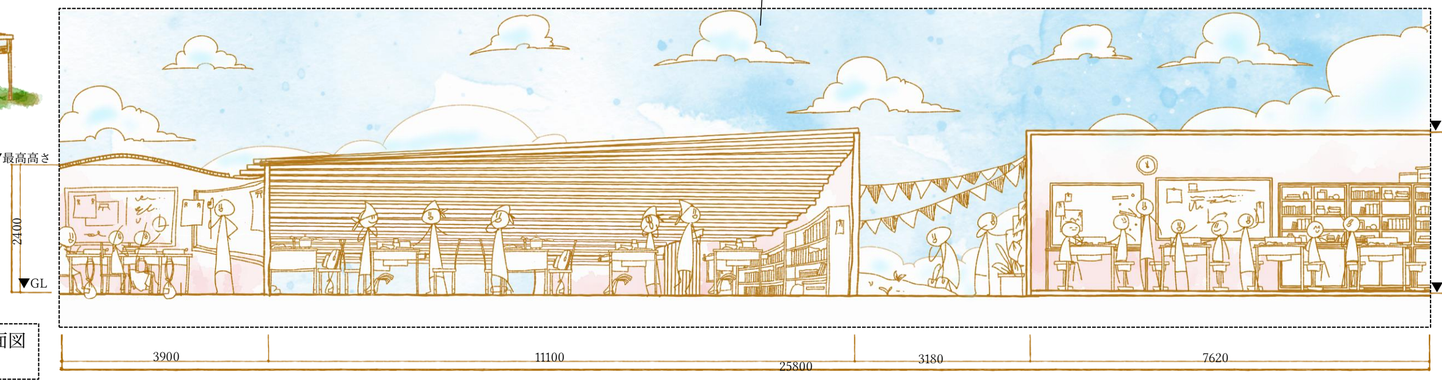


中央平面図　S=1:525

外教室の様子

他者や他学年との交流ではなく個人の空間、
「居場所」を確保できるように促す。

交流の強制ではなく、
自分がやりたいこと・行きたいことを考え選択できる。
自由な教育を目指す形を取り入れていく。



F-F'断面図
1:80